

【**展覧会**】**第16回滋賀県施設・学校合同企画展 ing…****～障害のある人の進行形～**

「滋賀県施設・学校合同企画展 ing… ～障害のある人の進行形～」は、ボーダレス・アートミュージアム NO-MA が開館した当初から、障害のある作者の表現に寄り添う支援者によって、形作られてきました。

滋賀県内の福祉施設と特別支援学校の職員、地域の造形教室の講師と NO-MA が展覧会を企画し、33名による作品を展示します。

議論を重ねて構成された展示空間には、作者が制作に向き合う、あるいは支援員と関わりあう時間が凝縮されています。日々、生み出される作者の表現の「今」をご堪能ください。

**会期：**

前期 2019年11月30日(土)～12月28日(土)

後期 2020年1月11日(土)～2月9日(日)

**会場：**

ボーダレス・アートミュージアム NO-MA

|前期|2019年11月30日(土)～12月28日(土)|後期|2020年1月11日(土)～2月9日(日)|

※開館時間 11:00～17:00 ※休館日 月曜（11月25日・12月2日・12月9日・12月16日・12月23日・12月30日）  
 ※会場 ボーダレス・アートミュージアム NO-MA（滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837番地の2）  
 ※入場料 一般2000円、中学生1500円、小学生以下・障害のある方・65歳以上の方 1000円（当日現金のみ）  
 ※詳細は滋賀県福祉・学校連携推進課（近江八幡市安土町下豊浦4837番地の2）に問い合わせください。  
 ※お問い合わせ先 滋賀県福祉・学校連携推進課（近江八幡市安土町下豊浦4837番地の2）  
 ※お問い合わせ先 TEL：0748-46-8100 FAX：0748-46-8228 MAIL：kikaku@glow.or.jp

**【展覧会の見どころ】**

- 滋賀県内28か所の福祉施設と特別支援学校の職員、  
地域の造形教室の講師と、NO-MAが合同で企画・展示
- 出展者の制作に日々関わり合う支援員ならではの  
視点から生み出される展示空間
- 出展者・支援員・美術家と共に制作を楽しむ、

“ingっぽい”創作ワークショップを開催！

**【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】**

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部（ボーダレス・アートミュージアム NO-MA）

担当：山田・山口 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地の 2

TEL：0748-46-8100 FAX：0748-46-8228 MAIL：kikaku@glow.or.jp

## 展覧会概要

タイトル 第16回滋賀県施設・学校合同企画展 ing… ～障害のある人の進行形～

会 期 前期：2019年（令和元年）11月30日（土）～12月28日（土）

後期：2020年（令和2年）1月11日（土）～2月9日（日）

会 場 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（滋賀県近江八幡市永原町上16）

開催時間 11：00～17：00

休 催 日 月曜日（祝日の場合は翌日）

観 覧 料 一般200円（150円） 高大生150円（100円） 中学生以下無料

※障害のある方と付添者1名無料（ ）内は20名以上の団体料金

主 催 第16回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会、ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～）

後 援 滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会

協 力 一般社団法人近江八幡観光物産協会、社会福祉法人しみんふくし滋賀

助 成 障害者芸術文化活動支援センター運営費補助金（滋賀県）

出展施設 [前期] あそしあ／アトリエひこうきぐも／あんと／伊香立の杜 木輝／えがお／救護施設  
ひのたに園／きらり庵／甲賀福祉作業所／滋賀県立近江学園／滋賀県立信楽学園／  
障害者支援事業所いきいき／ステップアップ21／能登川作業所／ひまわりはうす  
[後期] 愛育苑／おうみ作業所／さくらはうす／さんさん／しあわせ作業所／滋賀県立野洲  
養護学校／信楽青年寮／バンバン／ピアーズ／彦根学園／ふくらの森／放課後等デ  
イサービス 第2ももスマイル

協力施設 社会就労センターあおぞら／にっこり作業所

アドバイザー 野原健司（美術家）

※五十音順・敬称略

## 出展者紹介（広報画像用）

※作者紹介文は、各実行委員がカタログ掲載用として執筆したものですから抜粋しています。

### 【前期】

#### 石井 春樹 Ishii Haruki 1989年生まれ

後からの粘土工作の時間、その場にある粘土で自由に作品を作ってくれました。造形作品を作るのが得意な春樹君は、迷いもなく手を動かしてこの作品を作っています。

“大きくとびでた目” “長いしっぽ” “大きな鼻や口” そんな生き物を春樹君の感性で作ってくれました。作った後に「何作ったん？」と聞くと“牛”と答えてくれました。その時私が想像する牛と春樹君の作品の“牛”とのギャップに驚かされました。春樹君が頭の中で考えている想像豊かな考えは、無限の可能性はあると私は改めて思いました。

その後牛が乗っている板も、春樹君がバーナーで黒く染めてくれました。

それも迷いなく作業してくれました。

そんな春樹君はあんとの利用者さんに、散歩中はとても優しく手をつないでくれます。春樹君が作った“牛”をよく見ると、この作品の中に優しい春樹君の内面を感じ取れます。 [あんと／馬場 康宏]



①「牛」2019年

#### 鈴木 彩華 Suzuki Ayaka 1991年生まれ

今回の作品のテーマは『空』。水色や白色の絵の具が目を引き面が『青空』、赤色や黄色が混じり合っているのが印象的な面が『星空』である。

作り方は絵の具を付けた手の平でキャンバスとなる布を引っ張ることの繰り返しで、一見シンプルに思えるが、それだけではない。この作品を生み出しているのは彼女の“こころの動き”である。好きな色に胸が躍れば手の動きは大きく大胆になり、逆に気持ちが乗らない時は小さく静かな指先の動きに変わる。その瞬間のこころの揺れ動きが手や指先の動きを通して表現され、カタチになっているのだ。

いつも「ふふふ」と笑いながら、彼女はモノ作りを通して自分の内側を覗かせてくれているのかもしれない。 [えがお／久木 富久子]



②「空」2019年

#### 谷口 祐音 Taniguchi Yuto 2005年生まれ

彼が初めてアトリエをおとずれたのは12年前、2歳のときでした。

現在14歳、野洲養護学校・中学部の2年生になりました。

これまでアトリエで絵を描くことはほとんどなく、白い粘土を使ってどちらかと言えば抽象的な表現で立体作品を作っていました。

素材色のままの作品からは、彼がどの様な色を好み、どの様な色合わせをし、どの様な絵を描くのか想像が付きませんでした。

そんな彼が今から一年ほど前、絵を描き出したのです。

心地よさそうに透明クレヨンをキャンバスの上に走らせ、いろいろな表情の絵をすらすらと描き上げていきました。

それはまるで絵で表現された「心の日記」のようです。

日にちごとに展示しました。その日、その時の心模様をお楽しみ下さい。 [アトリエひこうきぐも／塚本 智映]



③「2019.2.4の作品」より2019年

**早瀬 友基 Hayase Yuki 2002年生まれ**

「何作ってるの？」ある日の作業場、私は彼に尋ねた。

「プテラノドン！」ぶっきらぼうだが、一片の邪心も感じさせない返事だった。

作品には、少年が好きそうな物が散りばめられている。一方で、規則性のあるデザインも見られる。全て、彼のオリジナルだ。瞳はまるで、カメラのようだ。一度目にした物、光景を瞳に焼き付けてある。何も周りに置かず、粘土だけに向き合う。それなのに、彼の手から創り出される作品のバリエーションには、限りが無い。

作業場では、職業指導として捉えると、ちゃんと集中し続けて欲しいと思う。つい指摘したくなる時がある。しかし、そんな思いなど露知らず。彼はいたってマイペースに、いつの間にか作品を仕上げってしまう。

一体、彼の瞳には、どんな世界が焼き付いているのだろうか。

[滋賀県立近江学園／西田 恵子]



④「グラデーション」2019年

**細川 啓太 Hosokawa Keita 1994年生まれ**

休日にヘルパーさんとお出かけするのが大好きな彼。スーパーやコンビニで好きなものを沢山食べて帰ってくる。立ち寄ったお店でチラシを貰ってくる。部屋に持ち帰り、ちぎっている。それにでんぶん糊をつけて、一枚一枚貼り重ねることによって生まれたのがこの作品だ。以前は職員が用意した折り紙で制作していたが、ある時、部屋にたまっていたチラシを自分からちぎっている様子を見掛け新たに取り組んでみた。

ビールやジュース、それに人と関わるのが好きな彼。「ビール振ったら、泡だらけになる」「みかんジュース振ったら、泡だらけになる」「サイダー振ったらシュワシュワする」などなど声をかけてくる。そんな彼の声が今日も聞こえてきそうな、彼らしい作品だ。 [伊香立の杜 木輝／向畑 健太郎]



⑤「ビール」2019年

**【後期】**
**北川 賢志 Kitagawa Kenshi 1984年生まれ**

「おはようございます!!!!」

素晴らしいあいさつで彼は出迎えてくれます。

日本で一番気持ちの良いあいさつをするのは本当に彼だと思います。

もしあなたが落ち込んでいる時

自信がなく一歩を踏み出せない時

いまいち乗り気になれない時

彼女に振られて元気がでない時

ふくらの森の彼に会いに来てください。

彼は出会った人を、笑顔にできる魔法のようなものを持っています。

これらの作品を通じて少しでも彼の魅力を感じていただけたら幸いです。

[ふくらの森/岸本 拓真]



⑥「おでん」2019年



**木野 良和 Kino Yoshikazu 1959年生まれ**

彼の制作は至ってシンプル。HBから10Bの鉛筆を提供するとそれらをランダムに取り上下にスライドさせて描き進めていく。そのスライドは2, 3回で終わったり止まらなかったり。筆圧が強かったり弱かったり。筆圧が強い際は(画材によるが)画面がへこんだり破れたりする。オイルバーやクレヨンでは色の重なりやグラデーションが活き、鉛筆やボールペンではスライドの回数や筆圧が活きてくる。制作スタイルは大きく変わらないが画材で作品の魅力が何倍にも膨らみ、それぞれに魅力がある。

出展作品は、初見でのインパクトも大きい筆圧の違いや衣類との摩擦で出来た濃淡があり、見れば見るほどに奥深く見ごたえのある作品に仕上がっている。 [信楽青年寮/桶井 靖子]



⑦「無題」2019年

**小瀬川 僚 Kosegawa Ryo 1986年生まれ**

ジャズの流れる室内で、どろんこ絵の具を使い自慢の長い指でフィンガーペインティングをしました。

色を選ぶ時は気になる色や好きな色があるとその色を追視したり、口を大きく開けて笑顔でスタッフに教えてくれます。絵を描く時は左手の指の外側につけた絵の具を画用紙の左下から右上の方向へゆっくりと力強くグーン!と伸ばして描いています。画用紙をしっかりと見て集中している時は大きく腕が動きます。指につけた絵の具の感触を楽しみながら勢いのある作品を笑顔で楽しく描くことが出来ました。 [ピアーズ/大藪 規晃]



⑧「無題」2019年

**松田 瑛 Matsuda Akira 2005年生まれ**

“描きたい”と思ったら、場所も時間もテストの解答用紙だろうが、学校からの配布物だろうが、彼には関係ない。ぐんぐん描き始める。電車の本に載っている写真を見ながら、1ミリ単位の細かい線を定規と、鉛筆と色鉛筆で描ききる。フリーハンドの時もある。

今回の展示は輸送、走行、向かい側に見えるドアと車窓、電車の内部シリーズ。目に飛び込んでくるもののどの部分を切り取って描くかの、着眼点と言うか、描きたいと思う視点が非常にユニークである。今回のピカ1は立体作品。福岡市科学館にあるジオラマを写真に撮り、その写真が車窓となるように電車内部を立体的に作ったものを貼り付けている。電車の旅一流れる景色を楽しんでいるような彼の笑顔まで想像できてしまう。こんな風に作品を作り上げていく彼の風景の切り取り方がとても素敵。 [放課後等デイサービス第2ももスマイル/福山 かおり]



⑨「向かい側の座席からみえるドアと景色」

2019年

**中村 祐哉 Nakamura Yuya 1977年生まれ**

創作活動を始めて4年になる。紙破りや石ころ、カバサ(南米の打楽器)に触れることで生まれる感触が好きである。

創作は、キャンパス上に1センチから2センチ程度のクレヨンを数十個準備することから始まる。本人の前に準備されると注視しすぐに手を伸ばしている。そして、沢山のクレヨンを握る、落とす、混ぜ合わせて転がす、擦ることを行ないキャンパスの上に点や線を円状に重ねながら描いている。

円状の中に現れる線や色の流れ、それらが折り重なる事で生まれる色彩は本人にしか作り出すことができない。 [さんさん/村田 有為]



⑩「無題」2018年

## 展覧会関連イベント

### オープニング・ギャラリートーク

作品を前に、作者とその展示を考えた支援者がその背景や思いを語ります。展覧会の始まりの時を共に祝いませんか。

日 時：【前期】2019年11月30日（土）13：30～15：00

【後期】2020年1月11日（土）13：30～15：00

会 場：ボードレス・アートミュージアムNO-MA（滋賀県近江八幡市永原町上16）

定 員：20名（要予約）

参加費：観覧料のみ

### 常設ワークショップ

出展者の制作を追体験するようなワークショップを開催します。

日 時：会期中の開館時間（予約不要）

【前期】発泡スチロール球で作品づくり（11月30日～12月28日）

【後期】そのタイトルで絵を描こう（1月11日～2月9日）

会 場：ボードレス・アートミュージアムNO-MA（滋賀県近江八幡市永原町上16）

参加費：観覧料のみ

### “ing”っほい創作ワークショップ

出展者の創作と一緒に体験しませんか。美術家の野原健司さんやアトリエひこうきぐもによるワークショップもあります。

日 時：2019年12月15日（日）13：00～15：00

会 場：酒游館（滋賀県近江八幡市仲屋町中6）

定 員：20名（要予約）

参加費：観覧料のみ

# 第16回滋賀県施設・学校合同企画展 ing…

## ～障害のある人の進行形～

広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部  
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA) 広報宛  
FAX : 0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

- ① キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者名（大西暢夫 or Onishi Nobuo）を必ず表記ください。
- ② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。
- ③ 本展記事をご紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為に校正、掲載誌（紙）、DVD、CD等をお送りください。

媒体名：

『 \_\_\_\_\_ 』

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー

ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日：

御社名：

ご担当者名：

Eメールアドレス：

@

(〒 \_\_\_\_\_ )

ご住所：

お電話番号：

FAX：

ご希望の図版番号に✓をおつけください。

<input type="checkbox"/>	①石井 春樹 「牛」 2019 年
<input type="checkbox"/>	②鈴木 彩華 「空」 2019 年
<input type="checkbox"/>	③谷口 祐音 「2019.2.4 の作品」より 2019 年
<input type="checkbox"/>	④早瀬 友基 「グラデーション」 2019 年
<input type="checkbox"/>	⑤細川 啓太 「ビール」 2019 年
<input type="checkbox"/>	⑥北川 賢志 「おでん」 2019 年
<input type="checkbox"/>	⑦木野 良和 「無題」 2019 年
<input type="checkbox"/>	⑧小瀬川 僚 「無題」 2019 年
<input type="checkbox"/>	⑨松田 瑛 「向かい側の座席からみえるドアと景色」 2019 年
<input type="checkbox"/>	⑩中村 祐哉 「無題」 2018 年

### 【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)

担当：山田・山口 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地の 2

TEL : 0748-46-8100 FAX : 0748-46-8228 MAIL : kikaku@glow.or.jp